

1
言葉
言葉の力をつけよう（音読1年・①） 〔古典落語「寿限無（じゅげむ）」〕
名前

古典には、和歌、俳諧、物語、随筆、漢文、漢詩など様々な作品があります。また、能、狂言、歌舞伎、古典落語などの古典芸能も含まれます。今から学習する「寿限無」は古典落語の代表的なものです。音読して古典のリズムに慣れましょう。

やってみよう

じゅげむ（寿限無）
 じゅげむ（寿限無）
 ごこうのすりきれ（五劫の擦り切れ）
 かいじやりすいぎよの（海砂利水魚の）
 すいぎようまつ（水行末）
 うんらいまつ（雲来末）
 ふうらいまつ（風来末）
 くうねるところにすむところ（食う寝る所に住む所）
 やあぶらこうじのやぶこうじ（やぶら小路の藪柑子）
 パイポ
 パイポ
 パイポのシューリンガン
 シューリンガンのシューリンダイ
 グーリンダイのポンポコピーの
 ポンポコナーのちようきゆうめいのちようすけ
 （長久命の長助）

《読んだ回数》

◆ 落語は、江戸時代ごろに成立した伝統的な話芸の一種です。

現在、落語家によって演じられる「噺（はなし）（演目）」の多くはこの頃から明治の頃にかけて作られました。これを古典落語といえます。

合計回

何度も

5回

4回

3回

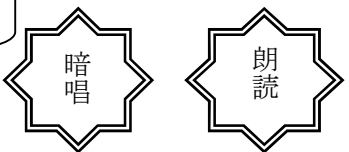
2回

1回

- ★「朗読」＝読む速さや間、声の調子を工夫してよむこと。
- ★「暗唱」＝文章を覚えて、何も見ないで音読すること。
朗読や暗唱にも挑戦しよう！



読めたら色をぬろう！



★寿限無とはどういう話か知っていますか。

生まれた子どもにおめでたい名前を付けようとした親が、和尚おしょうさんから教えてもらったおめでたい言葉を全部並べて、子どもの名前にしてしまいます。子どもはすすく育って、友達もこの長い名前を呼ぶようになります。ある日、ケンカをして殴なぐられてコブができた子どもが、親のところへ言いつけに来るのですが、この長い名前をやり取りしているうちに、親が見たときにはコブが引っ込んでしまったという笑い話です。

寿限無（じゅげむ）

人の名前といますものは、それぞれ、親の思いがこめられておりまして、いざ、つけるときになりますと、それはいろいろなことを考えるものとして。

ある男の家に、子どもが生まれました。生まれた子どもに縁起えんぎのよい名前を付けようと思ひ、和尚さんに相談します。

「こんにちは。実は、男の子が生まれました、名前をつけていただきたくて……。」

「おお、それはおめでとございます。なんと、わしに名付け親になってくれと。それは、うれしい。で、どんな名前がよいですかな。」

「とにかく、めでたい名前にしてくださいたくて……。」

「そうですね。では、寿命限りなしという意味で寿限無はどうじゃな。」

「へえ、それは、いい名前ですね。他にはないですか。」

「五こうのすり切れというのは、どうじゃな。」

「すり切れちゃつたらよくないような気がします……。」

「三千年に一度、天女がまい下りて、はごろもで岩をこする。この岩がすり切れてなくなるのが一こう。これが五つもあるのだから、限らないのと同じじゃよ。」

「ふええ、すごいもんだ。それから。」

「数えきれないものをまとめた言葉で海砂利水魚というものがあるぞ。」

「水行末、雲来末、風来末は、どこまで行っても果てしない宇宙のこと。」

「衣食住は大切だから、食う寝る所に住む所」

「やぶらこうじのやぶこうじは、正月の飾りに使う藪柑子やぶかんじだからめでたい。」

「他にも、少々長いが、パイポ、シューリンガン、グーリンダイ、ポンポコビー、ポンポコナーというのがある。」

「なんだか、不思議な名前ですね。」

「パイポは唐のアンキリア国の王様、グーリンダイはお妃、ポンポコビーとポンポコナーは二人の王子で、そろってご長命。」

「なるほど、なるほど、どれもいい名前ですねえ。えーい、選ぶのはめんどうだから、出てきた名前を全部付けてしまえ。」

と、いうわけで、この長い名前がついたそうなの。

この子どもが、大きくなると、大変なわんぱくだから、始終近所の子どもを泣かす。泣かされた子どもは、親の所に言いつけに来る。

「ワーン、おばさんとこの寿限無寿限無五劫の擦り切れ海砂利水魚の水行末雲来末風来末食う寝る所に住む所、やぶら小路の藪柑子。パイポ。パイポ。パイポ。パイポのシューリンガンシューリンガンのグーリンダイグーリンダイのポンポコビーのポンポコナーのちようきゆうめいのちようすけがおいらの頭をぶった。」

と、言ってるうちにコブがひっこんでいたとき。